

## 令和元年度 第1回 真備地区復興計画推進委員会 議事概要

### 1. 会議名

令和元年度 第1回 真備地区復興計画推進委員会

### 2. 開催日時

令和元年11月11日（月）10時00～12時00分

### 3. 開催場所

真備支所1階 101会議室

### 4. 出席者

#### (1) 委員（21名）

神崎均委員、中尾研一委員、黒瀬正典委員、坂本博委員、横溝哲委員、  
奥田隆志委員、山口敦志委員、野田俊明委員、徳田智恵子委員、山下新一郎委員、  
浅野静子委員、小倉智美委員、松王資子委員、諏訪愿一委員、中山正明委員、  
妹尾洋子委員、中山和幸委員、三村聡委員、橋本成仁委員、斎藤武次郎委員、  
三村英世委員

#### (2) その他

オブザーバー（3名）、事務局（16名）

### 5. 傍聴者

8名

### 6. 報道機関

9社

### 7. 議題

- (1) 真備地区の復旧・復興に向けた取組状況について
- (2) 真備地区復興懇談会における主な意見について
- (3) 真備地区復興計画の推進に向けて

### 8. 議事次第

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 真備地区復興計画推進委員会の設置について

- 4 委員紹介
- 5 委員長、副委員長の選出
- 6 議題
  - (1) 真備地区の復旧・復興に向けた取組状況について
  - (2) 真備地区復興懇談会における主な意見について
  - (3) 真備地区復興計画の推進に向けて
  - (4) その他
- 7 閉会

## 9. 配布資料

次第、委員名簿、配席表

- 資料1 倉敷市真備地区復興計画推進委員会条例
- 資料2 真備地区の復旧・復興に向けた取組状況について
- 資料3 真備地区復興懇談会における主な意見について
- 資料4 真備地区復興計画の推進に向けて

## 10. 議事内容 (◎ 委員長、 ○委員、 □オブザーバー、 ■事務局)

### ➤ 委員長、副委員長の選出

- 選出方法について、ご意見をいただきたい。
- 委員長には、昨年度、真備地区復興計画策定委員会でも委員長を務めていただいた、三村聡委員に、副委員長には、真備地区まちづくり推進協議会連絡会の会長である神崎委員にお願いしてはどうか。
- (異議なし)
- それでは、異議なしということで、委員長を三村聡委員、副委員長には、神崎委員で決定する。

### ➤ 議題(1) 真備地区の復旧・復興に向けた取組状況について

### ➤ 議題(2) 真備地区復興懇談会における主な意見について

- ◎ 策定した真備地区復興計画は、本年度より着実に進んできていることが、今の説明でとてもよく理解できたと思う。
- 真備船穂商工会では、グループ補助金について、積極的に取り組んでいる。今日現在、あと44名の方がまだグループ補助金の申請が出来ていない。今月が申請の期限なので、8月以降は、市の企業支援の方と町内の金融機関2社の方と我々商工会のメンバーで支援を行い、44名の方がなんとか申請できるよう、また、完了報告書を来年の3月までに完了させたい。やはり、企業が元気にならないといけない。そして、皆さんが真備町へ戻ってきて町が活性するために、せつかく国からのグループ補助

金の制度があるので、あと20日間ほど頑張っ、なんとかその方を滑り込みで申請させたい。

- ◎ 前進をしているといったような報告だったと思う。その他、農業の状況などはいかがか。
- 行政の支援をいただき、復興も計画どおり、むしろ思ったより早いのではないかと考えている。特に農業面では、水田も堤防の工事関係箇所以外は、ほぼ復旧し、今年も作付けをし、秋の実りを迎える事ができたということで、まず、お礼申し上げたい。  
一点、住民の不安について言いたいことがある。先ほどから出ているとおり、堤防の強化はされているが、末政川の堆積土砂の掘削が全く手がついていないので、堤防を嵩上げしても、また雨が降れば越流するのではないかという不安がある。それから、雨水は、ポンプ排水で小田川へ出しているが、ポンプは増強されないのか。堤防が復旧しても、今のポンプの機能では、先日の台風19号のように雨量が500ミリや800ミリになった時にはそのまま雨水が貯まって、また水没するのではないかという不安が残っている。大丈夫なのであれば情報提供してほしい。  
もうひとつ、災害によって集会所が流されたり、使えなくなっている。公共施設については、復旧されて大変嬉しいことであるが、地域のコミュニティ、地域単位で集まって、婦人や高齢者が利用していた住民の身近にある集会所の再建については、住民が負担をすれば再建できるが、残念ながら住民も災害に遭い、なかなか各家庭から20万円とか30万円とか集めるわけにはいかずに復興の目処がついていない。なんとか250戸から300戸に1箇所でもいいから、集会所を作って頂きたい。ただし、維持管理は全て住民でやっていくとか、土地だけ提供いただいて上屋を建てるとか、なんとか被災住民の負担が少なくなるような形で検討いただいたらありがたい。例えば5自治会に対して1戸といったような形で検討いただいたら、住民の心の復興というか、次へのステップを踏むための集まりとか、自治会の集会所が速やかにできるため、再建の一番の基本になるのではないかと思うので、要望として検討いただけたらと思う。
- 少し内容は違ってくるかもしれないが、真備ブロックの小中学校で項目14（資料2 p14）にある備蓄について、先日の東日本の台風による災害で、幼稚園か保育園で子どもが取り残されて船で救出された映像があった。もし、地震などがあって小学校、中学校から帰れない時を考えて、備蓄を検討しPTAの予算に入れていこうと考えているが、いくつか問題がある。個人負担にすると備蓄物資を消耗する時に避難してきた地域の方に提供するのがどうなのか、またアレルギーの問題などもある。真備地区は、災害時に使えそうな空き教室もあるので、備蓄物資を公共の予算として確保していただき、学校の空き教室に備蓄をすればいざという時に使える。また、地域の方々に提供することも出来る。もしくは、真備地区以外の地域で災害が起こった場合は、備蓄物資を他の被災地域に持って行くこともできる。今後のことも考えて少し

市として検討して頂けたらと思う

あと、真備のPTA活動について、真備の小学校・幼稚園では、リサイクル活動として、皆さんに新聞や缶を出して頂き、収入として年間50万円から60万円、少なくとも20万円から30万円の収入があったが、ここ2年リサイクル活動が出来ていないためPTA活動費が無く、昨年度、今年度と繰越金を支出している。たぶん来年度には繰越金が底を尽きる学校も出てきていて、PTA会費の値上げなども考えているので、地域の方も大変だと思うが、子どもたちや保護者たちが不安にならないように協力頂ける点があればと思う。

- ◎ 備蓄システムの体制については、今後の対応の仕方、特に相互的な活用も含めて出資すること、もう1点はPTA活動、特に地域の子どもたちが地域に安心して住んで頂くというのは地域そのものの持続可能性を考える上では、とても大切なテーマになってくる。

次の議論に移りたいが、委員会が始まる前に、災害に強いまちづくりとして、岡田地区まちづくり推進協議会の取組資料を頂いた。地元の方々が具体的に次の災害が来た時の取組を紹介頂ければと思う。

- 岡田地区では、岡田小学校が避難所になり2,000名以上の方が避難して来られた。先日、11月3日に岡田地区で防災研修会を実施した。水害が起きた時、まず、自分たちの周りで必要な物、持ってくる物、そういう物を持って、9時半に避難警報が出たということで避難所へ来てくれという研修会を実施した。岡田では、水害が起きて以降、いろんな大学の先生方と防災について研修をしており、そこで出た意見をまとめた。これはまだ完成品ではないが、岡田地区を災害に強いまちにし、まず自分たちの命を守るために、まず逃げることが最初ではないかということで、このような冊子を作成中である。もう1冊、岡山大学の先生方やいろいろな先生方と我々で、岡田災害に強いまちの報告書というか中間報告を作って、防災について勉強させて頂いている。

先ほどいろいろと説明いただいた中にもあったが、岡田地区では家屋の解体によって、たくさんの空き地が増えている。岡田小学校は避難所となっているが、小学校に入るまでの道路が狭く、昨年7月6日・7日は大変な混雑状態になっていた。いざ避難する時には、岡田小学校へ逃げてきてもらいたいと思い、今、県と市に対して空き地になった土地を活用して道路の拡幅をしてもらおうようお願いをしている。また、川辺地区の方から岡田地区へ入ってきた方に、岡田小学校はどこですかと聞かれたので、要所に岡田小学校までの案内看板を自ら作り建てた。そうしないと避難所が分からない状態だった。

それから、小田川の堤防を拡幅するということがだが、私が一番気になるのが、堤防の上の道路幅である。5メートルを7メートルに拡幅すると言われたが、真ん中に中央線をひけるのか。私は、もう少し広げて道路に中央線があるような道路にしてほし

いと思う。いざ避難するときに、中央線がないような道路を行き来するのは、危険ではないかと思う。復興防災公園を小田川堤防沿いに整備することになれば、車の通行量も増えてくると思うので、もう少し幅の広い堤防にならないのかと思う。

- ◎ 一括して最後にいろいろなご質問にも答えて頂くということで、次の議題の説明をいただいて、それを受けて皆さま方から意見をいただき議論を進めたいと思う。

➤ **議題（３）真備地区復興計画の推進に向けて**

- ◎ 今後の事業展開の方向性について、説明をいただいた。先だって災害公営住宅の整備についても少し関わらせて頂いており、創意工夫を凝らした形で早く整備することで市は積極的に取り組んでいるし、一步一步いろいろな施策が前に進んできているのは事実だと思う。財源的にも限界があるし予算制約もあるため、全てが全て出来ることではないと思うが、皆様方の創意工夫を活かしながら良い復興計画の推進ができればと思う。

- 一点は質問、一点は住民の意見ということで堤防強化について申し述べたい。

災害公営住宅について、間取りというか居住空間の面積はどうなっているのか、教えて頂きたい。

もう一点は、河川の拡幅・嵩上げ工事について、服部地区で真谷川が決壊して1.2キロくらいまで拡幅・嵩上げ工事をするという計画は聞いているが、工事区間に極楽寺に行く極楽寺橋という小さな橋がある。真谷川の堤防を80センチから1メートル嵩上げする計画は明確になっているが、極楽寺橋は、道路の嵩上げした高さに付け替えられるのか、そのままなのかといったところが、はっきりしていない。地元住民からすると、堤防がせつかく高くなっているのに橋が低かったら水没橋になって、結局真谷川の水が溢れてその隙間から住宅の方に水が氾濫してくる危険性がある。これでは問題だということで、極楽寺橋の嵩上げもしてもらえないかという声が非常に強い。極楽寺橋の管理が県なのか市なのかという管理の問題もいろいろあると思うが、みんなが安心できるように進めて頂きたい。

- 災害公営住宅の間取りですが、1DK、2DK、3DKの3タイプを用意しており、1DKが約40㎡程度、2DKが約50㎡程度、3DKが約60㎡程度といったようなタイプを作る予定としている。

もう一点、川辺地区に整備する災害公営住宅ですが、屋上に緊急時一時避難場所として活用できるように計画をしている。また、集会所を3階に設けており、有事の際には、地域の方も避難できるような計画で進めている。

- ◎ もし、また災害が起こった時の避難経路とか集会所とか、かなり創意工夫が盛り込まれた提案が採択されたと思っている。

- また、有井地区と箭田地区に災害公営住宅を予定している。現在、提案者が何社か応募をしてきており、12月末くらいには最優秀の提案者が決まる予定になっている。

る。建物の完成も令和3年3月15日までの工期で完成するように条件付けをしている。

- 極楽寺橋の嵩上げについてですが、今現在は橋を嵩上げしなくても水が溢れないような堤防の設置が可能だと見込んでおり、その計画案について、地元の方々と協議をさせていただいている。

真谷川の堤防が極楽寺橋の所で膨らむような計画で、通行する際には、一回真谷川の堤防を上がって降りて極楽寺橋を渡って、また真谷川の堤防を上がって降りるといようなラクダの背のような形状にはなる。河川の水が溢れることはなく、道路の勾配などは車の通行に支障が無い勾配で擦りつけることが可能であるため、現在は極楽寺橋を嵩上げせずに、真谷川の堤防の嵩上げをするという案を地元の方と協議させて頂いている。

- 車は通行できるが、大雨の時には極楽寺橋は浸水するから、その時は通行をやめてくださいということか。
- 大雨の時は、遠回りになるが極楽寺橋ではなく、迂回をしていただき、服部橋などを通っていただけるのではないかと考えており、引き続き、地元と協議させていただくので、よろしくお願いします。
- 災害公営住宅について一つ質問する。

アンケート調査の結果、川辺が49世帯、有井が12世帯、箭田が32世帯、その他13世帯ということで、その他の中には岡田地区の住民も何名かいると思う。できることならば、岡田地区にも災害公営住宅を整備してほしい。既存のアパートなどを活用して、災害公営住宅の代替にしようという考えであると思うが、もう少し検討して頂ければと思う。最初は200戸の整備予定だったが、今のところ90戸程度の整備ということなので、今後、災害公営住宅がさらに建てられるようお願いをしたい。

川辺地区に整備する災害公営住宅に岡田地区から入る道路について、朝7時から9時まで進入禁止であるため、今後、国道の方から災害公営住宅に入る道路を付ける予定はあるのか。

- 川辺の災害公営住宅への進入方法ですが、今、想定しているのは国道からもう少し東の方にある道から入って、10メートルから15メートル位で川辺団地へ行くルートを考えている。
- 災害公営住宅に入っていく道は狭いと思うが、道路を拡幅する予定はあるのか。
- 今のところは道路を広げる計画にはしていない。岡田地区からの道路については、想定していない。今後、計画を進めていく中で、警察などとの協議をしながら、進入路について研究させていただきたい。
- ◎ 災害公営住宅の進入路については、もう一度現地を確認して、議論していただければと思う。
- 今回、安全な避難地・避難経路の確保に向けてということで、ワークショップでい

ろいろ議論されている。非常に大事なことをやっていると思っているが、ワークショップでどのような知見を得られたのか。また、他の地区に対しても役に立つ情報が得られたのか教えてほしいというのがまず一点。

もう一つは、今回マイタイムラインということで時間経過による変化に注目しているけれども、ハザードマップが非常に役に立つということはよく分かっているが、ハザードマップは最終的にこうなるという絵であり、途中段階でどうなるかというところがすごく大事だと思う。避難経路の中でも、この部分は早い段階から冠水し始めますよとか、この辺りは早い段階は全然大丈夫なので安心して通れますよとか、ただし、最終的には全部冠水するかもしれませんとか。時間経過によって、早い段階で避難すればこの経路は使えるとか、昼間は大丈夫だけど夜はダメとか。昼と夜あるいは早めかと遅めかなどによって使える経路というのは変わってくると思う。詳細な作業になると思うが検討していただきたいと思う。それができると、例えばタイムライン等で早めに避難しましょうと言ってもなかなかモチベーションが無く、どうしても外で雨が降っている中で早めに空振りかもしれないのに逃げるといのはなかなか難しいけれども、早くしないとこの道通れなくなる可能性があるため、同じ所に逃げようとしても随分遠回りになることが分かると、早めに逃げ始めるというモチベーションにもなるかと思う。途中段階でどのように作ればいいのかアイデアはないが、どのように道がだんだん通りにくくなっていくというようなことも含めて、何かまとめていただくと実際逃げる時にこっちはヤバいかもしれないからこっちから行こうとか、そういうのが出てくるのではないかと思った。時間に注目して作業して頂けるとありがたい。

- ◎ ワークショップの具体的な議論の中から抽出されたようなことがあれば少し紹介いただきたいということと、後段の話は時間軸と高さ・深さですね。今回、真備が一番深い所で6メートル位まで浸水したというところが、この災害の大きさにつながったと思う。時間によって避難経路が変わっていくのでないかという変数を考慮して、避難経路の検討・整備、地域の皆様への周知ができるといいのではないかという意見だと思う。
- 単純な高さの問題ではないと思う。例えば今回は、そもそも川が天井川だったので、実は最終的にそれほど冠水しない所から実は先にオーバーフローしている可能性がある。住宅地よりももっと高い所から水が溢れ出ているわけなので、実は単にハザードマップで最終形と表現したけれども、それだけ見てはダメである。そもそも、どこから水が、例えば水路の位置だとか川の位置だとか、あるいは同じ100メートルの区間の中でもここは若干水に弱いなど、経験があると思うので、内水被害も含めて、そういう物も作っておく必要があるのかなと思う。
- ◎ 専門的な知見からの意見をいただいた。前段のワークショップの話について、事務局から説明をお願いする。

- ワークショップについては、当時、住民の皆様が避難の経験をされているので、その当時どのように逃げたとか、どういう状況だったのか、どういうことに困られたのかという意見があがっている。避難地・避難路を整備するにあたっては、これらの意見を踏まえ、ワークショップにおいて、例えば狭隘の道路を広くしていくとか、浸水により用水路と道路が分からなくなる所があれば境を分かるようにするなどの対策を検討している。このように、住民の皆さんでいろいろ検討していただいたものを参考に整備計画に繋げていくということは、他の地区でも有効な手法ではないかと考えられる。
- 時点、時点での浸水の状況についてですが、ハザードマップを作る時に、当然、時系列の情報がある。時系列の情報は、国土交通省の浸水ナビというホームページで公表しており、堤防が破堤したら30分後、1時間後にどこまで浸水がくるのかというものを公表している。

もう一点、実際に浸水がきた時にどこの道路が通れるのかというのが避難には重要だと思うが、計算結果と必ずしも一致しないということもあり、倉敷市も岡山県も分かっている所は規制の情報をあげると思う。事例として、マイタイムラインのヒント集7ページの一番下に、「トヨタ通れた道マップ」のQRコードが掲載されている。ここでは、1時間位前に通れた道、実際に車が通った道に色がついていて、ここは通った形跡がありますよというようなことが情報として出されており、浸水して通れなくなった道は着色されないといった形になっている。こういったことを参考に避難を検討いただくということで活用いただければと思う。
- 非常時にいろいろな情報を、特にビッグデータ系の情報もあるので、もちろんスマートフォンとかその場で使えれば非常に良いのですが、私の意図していたのは、せっかくワークショップで地元の人たちが集まってやるので、今回の水害は特殊なものかもしれないけれども、普段の内水被害においても、この道は比較的すぐに浸かるなどといった、長くそこに住んでいる人たちの知見といったようなものを表現できないのか。そうすると真備地区は、これからたくさんの人が入ってくると思うので、新しく来た人にとっても、「ここって普段そう思ってたけどすぐに水に浸かるかもしれないな。」「避難経路はこっちが良い。」というようなことも分かるかと思う。せっかくワークショップをやるので、そういった視点をという意図で発言した。
- 今いただいた意見は、非常に貴重な意見だと思う。今後、各地区で地区防災計画を作ってもらいたいけれども、今言っていたいただいた観点というのは、必ず検討の中で出てくることだと思うので、我々もできるだけ持っている情報を提供しながら、地域の方と一緒に検討できるように進めていきたいと思う。
- その時その時で、水害が起きた時、どこに一番はじめに水がくるかということが、本当に想定できない。したがって、ハザードマップも非常に大切であるが、その通り

にはなかなかいかない。昨年の豪雨災害時、岡田小学校の避難所から7時半に帰った時には、真備東中学校の東側の道は約20センチ冠水していたが、川辺小学校のグラウンドは、真備東中学校よりも1メートル以上低くても水は全然きていなかった。だけど、実際に水位が上がった時には、川辺小学校の水深が深い状態になってくる。そのようなことがゆっくりではなく、急に来るので、その辺のことも考慮してほしいというのが一つ。

もう一つは、川辺地区だけ特殊かもしれないが、三方が川に囲まれており、どの方向が切れるか分からない。そのため、川辺地区の住民としては、二次避難所は例えば岡田小学校あるいは川辺小学校の3階以上で良いと思うが、まず近い所へ避難して、それから決められた避難所へ避難すると思っているので、一次避難所と二次避難所を考えた方法がないかと思う。

- ◎ やはり、地域のことは地域の皆様方が一番よくご存じだと思うので、今回の取組を是非良い形にして自主的に防災体制を整えるということもとても大事な事だと思うし、この真備の経験をまさに全国の皆さんにもご示唆申し上げられるような、そんな流れが先ほどの岡田の災害に強いまちづくりの話もあったが、こういったものをやはり丁寧に議論をしていきながら、いざという時の備え、これも最終的に100%というところまでは無理ですけども可能な限りやっていく。一方で、先ほどのアンケートの説明で思ったが、やはり真備に戻りたい人が多い。先行して水害に遭われている他の都道府県のまちだと、ここまで地元に戻らないケースが多い。だから、そこを前向きに今まで以上に良い町にしていくために、協働という言葉も今回の復興計画の中にも入っているし、具体的な取組、これをソフトの面とハードの面の話も随分していただいているので、ソフトのところは皆様方のお力をいただきながら、やっていければと思う。

復興防災公園について、何か意見などあれば。いろいろな物を作るということにはならないと思うが、今回の説明で、かわまちづくりはとても前向きな話だと捉えたがいかがか。

- かわまちづくりですが、小さい子どもを連れてくるお母さんたちも楽しめる場所、小さい子を連れていっても、例えばオムツを替えたり、日陰があったりとか、人々が集まれる場所ですね。そこに行くともみんなと会えるような場所も作って頂けたら、小さいお子さんを連れて行くお母さんにも良い場所かなと思います。
- ◎ 創意工夫で、水と共に生きるというようなまちづくりができればいいのではないかと思う。
- 一つ伺いたいですが、携帯のアプリの真備情報@行政（国土交通省・岡山県・倉敷市）が作成されて登録が増えていると思うが、現時点でどの位の方が登録しているのか。
- 現時点で755名の方に登録いただいている。
- 社会福祉協議会では、みなし仮設住宅で暮らしている方が非常に多いので、本当に

地元に戻ってきていただきたい。役員の方が仮設住宅に住んでいる方に会いに行くことはなかなか出来ないけども、電話をさせていただいたりしている。真備に戻りたい方が8割と聞いて、もっと戻ってきていただいて普段どおりの生活ができればいいなと皆さんで話をしている。

- 市議会としては、復興元年として賢明に取り組んで参りたいと思っている。今回示されたのは、どちらかというところ5年後に向けたハードのところだと思う。これについては、しっかりやっていくが、一方で8割の方が真備地区に戻りたいと思っている。真備地区の住民は、住民票を見ると発災前から9.5%減になっている。そして、おそらく5,200人という仮設住宅で暮らしている方は、住民票を移さずに真備地区で住んでいると考え、単純計算で3割の方が真備に戻れないという状況の中で、やはり5年後に向けて真備に戻れる状況をソフトの面で作っていくのも私たちの大きな役割だと思っている。一つは、みなし仮設からみなし仮設への転居。せっかく真備にアパートがあるので、そこに住んでもらうのも一つの方法であると思う。そして、真備に住みたいというのは従来のコミュニティ活動が活発に行われていたということの証でしょうから、各町内の集会所が単に助成ではなくて例えば市が仮設で一旦作って、まずコミュニティ活動ができる環境を先に整備をしていくとか。そして、PTAの方と話をすると、中学校に入学するのにいつまで通学用のバスを出してもらえるのかということもはっきり分からない中で、なかなか学校の選択が難しい。また幼稚園の新入園児が激減しているという中で、若い人たちが真備に戻って来られる、住み続けられる環境をこの5年間でしっかり整備していくと同時に、それをしっかり発信していく責務が私どもにあると思っている。しっかりハードとソフトを共に頑張っていきたいと思う。

- 今日、皆様方からいただきました意見、もちろん復旧のことについてもそうですが、多くは今後もし災害が起こった時に避難経路はどうするのか、避難場所をどうするのか、学校に逃げた時の備蓄はどうするのかなど、そういうことが多くあったように思っている。今、全国どこでも大きな災害が起こっている状況の中で、様々なハード整備を進めていくが、そういった中で住民の皆さんによる地区の計画として、個別のそれぞれの方が逃げる計画は非常に大事であるので、今日は各地区の皆さん、各団体の皆さんが来られていますが、そういう面への取組をみんなで一緒に行っていくことが大変大切であると思っている。

市としても、皆さんから意見をいただいている避難道路の整備について、避難路という面でこれまでとは違う所も道を拡幅したり、逃げやすい所をできる限り整備していこうと思う。

また、排水ポンプ場等につきましてはほぼ復旧が済んでおり、内水氾濫というところになると全市的な方針ということもあるので、それもあわせて考えていくということになる。

小田川の拡幅ということで、堤防道路をたくさんのトラックが通っていくことは考えていない。ワークショップの中でも意見が出たと聞いているが、いざという時に高梁川の堤防と同じように、双方向通行は厳しいと思うが、一方通行など、みんなで決めたルールのようなものを作っていければいいかと思う。

集会所については、今、約3分の1はかなり復旧に向けて進んでおり、3分の1は修繕される方向が決まっているが、一方で公費解体ができる期間というのは、国の補助の関係もあって年末までが申請ぎりぎりの限界であると思っており、できれば各町内の中で方向性が決まっていないところは、まず、市の方に相談してもらいたい。

さまざま意見をいただいているので、とにかく今後の避難のことについては、今後の災害に強いまちづくりに向けて、復興計画の見直しなどについて皆さんと相談しながらやっていきたいと思う。

- ◎ 事務局は本日出た委員の皆様方からの意見を踏まえて、引き続き復興計画に基づく事業の着実な推進に努めて頂きたいと思う。

本日の議題は全て終了したので事務局へ進行をお返しする。

➤ 閉会

- これで議事の方は全て終了しました。

次回の委員会は、3月中旬に開催させて頂きたいと思います。日程については、あらためて案内します。

長時間にわたりどうもありがとうございました。

会議録の内容に相違ないことを確認し、ここに署名します。

令和元年 11月 29日

委員長 三村 聡 

署名委員 中尾 研一 